

不妊診療における鍼灸の効果

— 紹介から施術まで —

[執筆] 田口玲奈 (明治国際医療大学鍼灸学部)

[監修] 寺澤佳洋 (口之津病院内科・総合診療科, 医師・鍼灸師)

鈴木雅雄 (福島県立医科大学会津医療センター漢方医学研究室教授)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶ HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から3営業日以内にお送り致します。

▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は<https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/>をご参照ください。

▶ 登録手続

1. はじめに ————— p2
2. 鍼灸治療が有効であった症例 ————— p2
3. エビデンスからみた女性不妊に対する鍼灸治療の効果 ————— p5
 - 1) 胚移植時および採卵時の鍼治療の効果
 - 2) 多嚢胞性卵巣症候群 (polycystic ovarian syndrome ; PCOS) に対する鍼治療の効果
 - 3) 長期的な鍼灸治療の効果
 - 4) ARTを行わない不妊女性に対する鍼灸治療の効果
4. 女性不妊に対する鍼治療のメカニズム — p8
 - 1) 神経内分泌系の調節
 - 2) 卵胞の環境および卵子・胚への影響
 - 3) 子宮に及ぼす影響
 - 4) ストレス, 不安, 抑うつなどの軽減
5. 東洋医学における不妊と鍼灸治療 ————— p13
 - 1) 腎虚による不孕
 - 2) 気血両虚による不孕
 - 3) 肝鬱による不孕
 - 4) 痰湿
 - 5) 血瘀
6. 女性不妊における鍼灸治療の適応 ————— p15
7. 不妊診療における鍼灸治療導入の現状と役割 ————— p16
8. まとめ ————— p16
鍼灸師や鍼灸院を患者に紹介する場合

▶ 販売サイトはこちら

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶ Webコンテンツ一覧

1. はじめに

2023年にWHOは、世界の成人人口の約17.5%、6人に1人が不妊を経験しており、世界的な健康上の課題として不妊治療を利用しやすい環境整備を急ぐ必要がある、と指摘している。

わが国でも、2022年4月より人工授精などの一般不妊治療、体外受精・顕微受精などの生殖補助医療 (assisted reproductive technologies ; ART) において保険が適用されることとなった。

しかし、ARTで出産に至る確率は約20%と決して高くはなく、多くの不妊患者を悩ませている。

また、妊娠には年齢の制限があり、限られた時間の中でより多くの妊娠機会を得るために、漢方やサプリメント、鍼灸治療などの補完代替医療 (complementary and alternative medicine ; CAM) がよく用いられる。本稿では、女性不妊に対する鍼灸治療の効果について紹介する。

2. 鍼灸治療が有効であった症例

症例 1

42歳 女性

不妊原因：子宮内膜症，加齢

妊娠歴：なし

鍼治療開始までの不妊治療期間：1年2カ月

これまでに体外受精－胚移植 (in vitro fertilization-embryo transfer ; IVF-ET) を5回ほど行うも妊娠反応は認められず、年齢的にも危機を感じていた。

鍼治療開始直前にもIVF-ET (新鮮胚移植) を行ったが、妊娠反応がみられず、不妊症専門クリニックより鍼灸治療を紹介されて治療を開始した。

鍼治療は週に2回行い、使用した経穴は百会穴、合谷穴、三陰交穴、血海穴、内関穴、归来穴、太衝穴、中髎穴(図1)で、およそ3カ月間、鍼治療を行った。

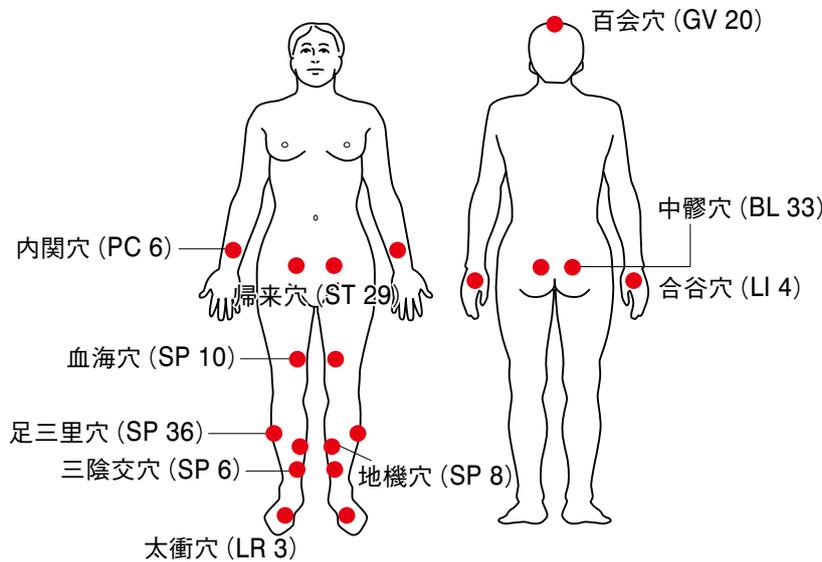


図1 不妊治療でよく用いられる経穴

鍼治療直後から体が温まる感じや肩こりが楽になる様子がみられた。

鍼治療開始約2カ月半後に再びIVF-ET(新鮮胚移植)を実施し、その後に妊娠陽性反応が認められ、鍼治療開始3カ月後には妊娠5週6日となった。その後も妊娠10週まで鍼治療を継続し、産科への転院とともに鍼治療を終了した。その後、39週で出産された。

症例2

30歳 女性

症状: 月経不順(不整周期月経)

最近、徐々に月経が不規則となり、不整周期を繰り返す。今すぐの妊娠は希望していないが、いずれは欲しいと考えている。今後のことを考えると、月経不順が気になりはじめ、その他の症状としても身体が疲れやすく、肩こりや冷え性などもあり、全身調整のため鍼灸治療に来院された。

四診により肝鬱気滯(ストレスにより気や血が巡らず滞る状態)と診断

し、2週に1~2回のペースで鍼灸治療を開始した。

鍼灸治療開始後は肩こりや冷えは軽減するが、不整周期に変化はみられなかった。そこで、排卵障害に有効とされる鍼通電療法 (electroacupuncture; EA)¹⁾ に切り替えたところ、月経周期が整うようになり、基礎体温も二相性へと変化した (図2)。

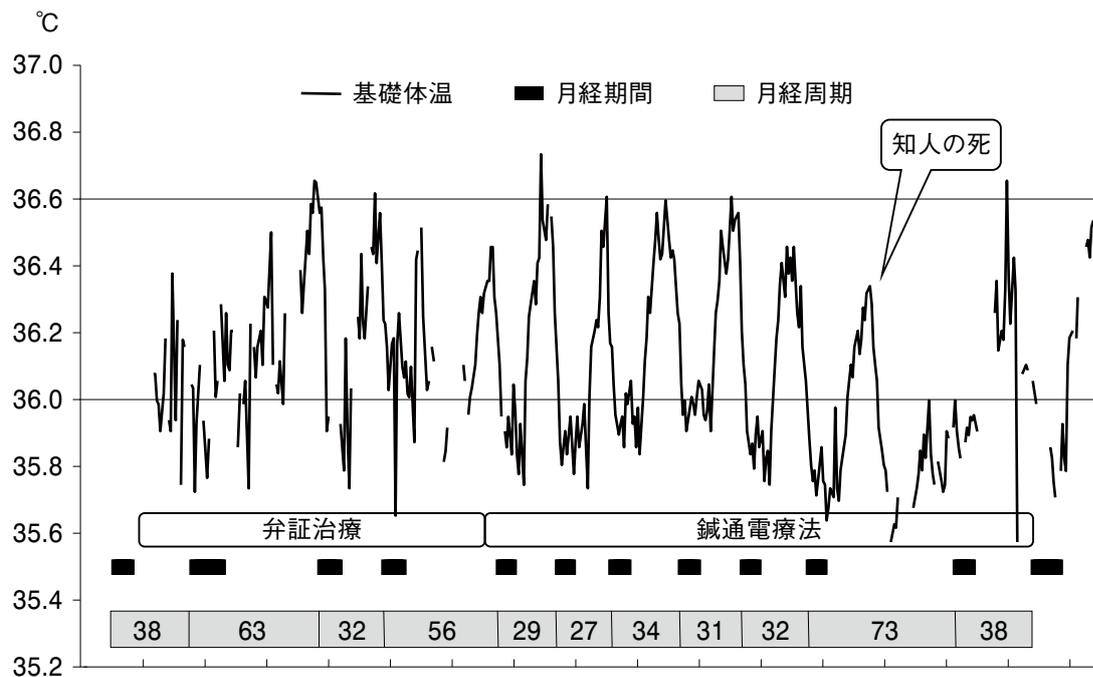


図2 不整周期月経に対する鍼灸治療の効果

EAは下肢にある三陰交穴と陰陵泉穴、腰臀部の腎兪穴と膀胱兪穴に対して、刺激頻度を2Hzで20分間、筋収縮がみられる程度の強さで行った (図3, 動画1)。途中、稀発月経となった時期があったが、知人の死を経験するなどの大きなストレスが加わったためであった。このように、鍼灸治療による基礎体温および月経周期の正常化は、鍼灸治療が視床下部-下垂体-卵巣系のホルモン動態に影響を及ぼした可能性を示唆している。